

概要

活動地域: 岩手県九戸郡野田村
 活動期間: 2011年7月28日～継続中
 活動体制: 工学院大学 野澤研究室
 八戸工業高等専門学校 河村研究室
 首都大学東京 玉川研究室
 首都大学東京 市古研究室



活動キーワード: 東日本大震災、復興、生業、CWS

2016年度活動メンバー

M2: 笠原 彩香 M1: 杉浦 美穂 B3: 中野 慶 / 八木 聖輝 B4: 会田 尚樹 / 福田 麻実

夢ではない、今あるものを最大限に使って、 野田村の将来像を考える

活動経緯

2011年3月11日に起こった東日本大震災において、岩手県野田村では、津波によって村内の住家1/3が被害を受けるなど、中心市街地や漁港など広域にわたって甚大な損害を被った。

2011年度より八戸高専の河村研究室、首都大学東京の玉川研究室と市古研究室、工学院大学の野澤研究室、計4つの研究室が主体となって、復興まちづくりを提案するCWSを行ってきた。この4つの研究室では都市や建築について勉強しており、その知識を活かしてまちづくりの提案を行っている。

活動対象地概要

「北限の海女」で有名な久慈市、「黒崎海岸」が美しい普代村、また日本三大鍾乳洞に数えられる「龍泉洞」で有名な岩泉町と隣り合う。特産品はホタテ、ワカメ、ハウレンソウ、食用菊、山ブドウ。ドラマ「あまちゃん」で話題になった、三陸鉄道が通る野田村。駅名は「陸中野田」。震災で被害を受けて一部運休をしていた三陸鉄道は、2014年4月1日全線で運転再開をし、さらに盛り上がりを見せる。



昨年度までの活動内容

2011年度、2012年度は復興初期段階として、中心市街地のゾーニング等の復興まちづくり提案を行ってきた。2013年度からは、より住民意識を理解し、野田村に寄り添った提案を行うために生業体験を始め、2014年度には生業体験を発展させた民泊プログラムを開始した。CWSの形式からは大きく外れていくことになったが、こうした活動の中で村民と学生との距離を縮め、野田村に根付くような提案をすることが目標である。2013年度からは毎年、夏合宿として野田村訪れ、現地調査や民泊体験などを行い、冬に再び野田村を訪れ村民に向けた提案報告会を行う活動体制をとっている。

2016年度の活動内容

今年度は、復興から次の段階に進むため、地方創生総合戦略の流れに乗って、「夢ではない、今あるものを最大限に使って、将来像を考える」ことを基本的な考えとして、「漁業班」「宿舍班」「ストファニ班」の3つの班に分かれて活動を行う予定であった。しかし、夏合宿直前の8月末に起こった台風10号による大雨・浸水により、野田村でも漁港や下安家地区などが被害を受けたため、当初の夏合宿の予定を変更し、ボランティア活動や現地視察等を行った。

【当初の活動予定】

■漁業班:中野

生業体験(漁など)やヒアリングを通して、より野田村の漁業について知り、昨年(2015年度)提案した「漁業おこし協力隊」をパワーアップさせた提案を行う。

■宿舍班:杉浦、八木、福田

野田村内にある既存施設と連携した、応援職員用宿舍の利用方策や活用プログラムについて考える。

■ストファニ班:笠原

村民向けのベンチ作りワークショップ(図1)を行い、野田村の中心部にあるコミュニティハウス「ねま〜」に成果物を設置することで、中心部の公共空間の魅力や村民の愛着を育む。



図1 ベンチ作りワークショップのチラシ

【ボランティア活動や現地視察】

■ボランティア活動

野田村内での土嚢運びや隣接している久慈市の中心部で清掃活動・泥の掃き出し作業などを行った。作業の合間に、久慈の中心地の被害状況を視察した。建物には、浸水した跡がのこっており(図3)1.7m近く浸水したところがわかった。また各所で、浸水した家財道具などを家に出し清掃活動や排水溝につまった泥の掃き出しが行われていたり、災害廃棄物が積み重ねられており、台風被害の深刻さを感じた。



図2:ボランティア活動の様子



図3:建物に残る浸水の跡



図4:浸水した住居

■現地視察

台風被害が大きかった下安家地区や隣接する岩泉町の視察を行った。下安家地区では、道路がはがされ岩盤が露出しその上に2mほど瓦礫が積み上げられている場所(図5)や、土台ごとえぐりとられている道路(図6)などがあり、復旧に時間がかかることが想定される。

また、野田村内で新設された都市公園の休憩所やバイオマス発電所(図7)、解体予定の野田中仮設住宅などを視察した。



図5:道路がはがされ岩盤が露出した様



図6:土台ごとえぐりとられている道路



図7:バイオマス発電所